

平成30年度 全国学力・学習状況調査における

北九州市立 白 銀 中学校の結果分析と今後の取組について

文部科学省による「全国学力・学習状況調査」について、平成30年4月17日(火)に、3年生を対象として、「教科(国語, 数学, 理科)に関する調査」と「生徒質問紙調査」を実施いたしました。

この度、本年度の調査結果を分析し、今後の取組についてまとめましたので、お知らせいたします。

学校の現状を知っていただくとともに、ご家庭での取組の参考にしていただきたいと思います。

なお、本調査により測定できるのは、学力の特定の一部分であり、学校における教育活動の一側面に過ぎません。本校では、他の教科等も含め、総合的に学力向上を目指しています。

1. 調査の目的

- (1) 義務教育の機会均等とその水準の維持向上の観点から、全国的な児童生徒の学力や学習状況を把握・分析し、教育施策の成果と課題を検証し、その改善を図る。
- (2) 学校における児童生徒への教育指導の充実や学習状況の改善等に役立てる。
- (3) そのような取組を通じて、教育に関する継続的な検証改善サイクルを確立する。

2. 調査内容

- (1) 教科に関する調査(国語, 数学, 理科)

| 主として「知識」に関する問題(A) | 主として「活用」に関する問題(B) |
|--|-------------------------------|
| ・身につけておかなければ後の学年等の学習内容に影響を及ぼす内容 | ・知識・技能等を実生活の様々な場面に活用する力 |
| ・実生活において不可欠であり、常に活用できるようになっていることが望ましい知識・技能 | ・様々な課題解決のための構想を立て実践し、評価・改善する力 |

※理科については、主として「知識」に関する問題と主として「活用」に関する問題を一体的に問う。

- (2) 生徒質問紙調査

| 生徒質問紙調査 |
|-------------------------------|
| ○学習意欲、学習方法、学習環境、生活の諸側面等に関する調査 |

※本校の3年生については、単学級ですので、個人が特定されないように公表の方法については、配慮しています。

3. 教科に関する調査結果の概要

(1) 全国・本市の学力調査(国語A・B, 数学A・B, 理科)の結果

| 本年度の結果 | 国語A | | 国語B | | 数学A | | 数学B | | 理科 | |
|--------|-------|-------|-------|-------|-------|-------|-------|-------|-------|-------|
| | 平均正答数 | 平均正答率 | 平均正答数 | 平均正答率 | 平均正答数 | 平均正答率 | 平均正答数 | 平均正答率 | 平均正答数 | 平均正答率 |
| 本市 | 24.0 | 75 | 5.4 | 60 | 22.6 | 63 | 6.1 | 44 | 17.3 | 64 |
| 全国 | 24.3 | 76 | 5.5 | 61 | 23.8 | 66 | 6.6 | 47 | 17.9 | 66 |

(2) 本校の学力調査結果の分析

| | | |
|-----|-------------|--|
| 国語A | 全体的な傾向や特徴など | 読む力の不足から問題の読み取りに時間がかかり、最後の問題にまで行きつかない生徒が多く見られた。そのため、最初の方の選択問題については無解答率は0%となっており、終わりに近づくと無解答が増えている。 |
| | よくできた問題 | 「凍る」の読み、「折り合いをつける」の慣用句の選択問題の正答率だけは、全国・県の正答率を上回った。 |
| | 努力が必要な問題 | ほとんどが努力を必要としているが、特に読めないことが理由でできていないので、まずは、読む力をつけることが大切だと思われる。 |
| 国語B | 全体的な傾向や特徴など | 書くことに対する抵抗感があるようで、選択式の問題は無解答率0%であるのに対して、記述式の問題は無解答が多い。また、字数が多いほど解答できず、最後のあらすじの説明については無解答率が21.9%となっている。 |
| | よくできた問題 | 話すこと・聞くことの問題は他の問題に比べると少しは正答率が高いが、よくできているとはいえない。 |
| | 努力が必要な問題 | ほとんどが努力を必要としているが、特に記述式の問題に対する抵抗感をなくすことが大切だと思われる。 |
| 数学A | 全体的な傾向や特徴など | 全体的に全国平均を大きく下回っている。苦手意識から、数学の基礎的内容の習得に取り組めていない生徒が多い。 |
| | よくできた問題 | 相対度数の変化の様子について正しい記述を選ぶ問題は、正答率が全国・県の正答率を上回った。 |
| | 努力が必要な問題 | ほとんどが努力を必要としているが、特に関係を表す式をつくる問題や等式を変形する問題は、正答率が低くなっている。 |
| 数学B | 全体的な傾向や特徴など | 多くの問題で無解答率が高くなっている。文章を読んで考えることを苦手とする生徒が多く、問題文を読む前に解くことをあきらめていると思われる。 |
| | よくできた問題 | 平行四辺形に関する問題には、よく取り組んでいる。 |
| | 努力が必要な問題 | ほとんどが努力を必要としているが、特にグラフから必要な情報を読み取り、事象を数学的にとらえることができていない。 |
| 理科 | 全体的な傾向や特徴など | 全国平均を大きく下回っている。応用問題に対する苦手意識が強く、特に記述問題の無解答率が高い。 |
| | よくできた問題 | 基本的な知識や技能を問われる問題の正答率が高い。 |
| | 努力が必要な問題 | 説明する、グラフから読み取る、計算を必要とする問題は正答率が低い。 |

4. 学校での学習活動、家庭での生活習慣等に関する質問紙調査結果の概要

| 質問紙調査の結果分析 |
|--|
| <p>・「家で、自分で計画を立てて勉強をしていますか」「家で学校の宿題をしていますか」等の家庭学習習慣における肯定的な解答が、全国の結果よりも下回っている。また、学習習慣の「授業以外にどれくらいの時間勉強をするか(60分以上行う割合)」が全国の結果より大きく下回っている。今後、家庭学習定着のためのさらなる取組が必要である。</p> <p>・心の育ちについては「地域や社会で起こっている問題や出来事に関心がありますか」「自分にはよいところがありますか」「人の役に立つ人間になりたいですか」などの質問に肯定的な解答をした生徒が全国の割合より多く、地域や社会への関心、自尊感情・夢・目標については高い傾向にある。</p> |

5. 調査結果から明らかになった、課題解決のための重点的な取組

① 教科に関する取組(全校で・学年で・学級で)

| |
|---|
| <ul style="list-style-type: none"> ・朝自習の取組で「漢字の読み書き」「英単語の練習」を繰り返し行い、どれくらい身に付いているかを自分で確認させるために、朝自習テストを行う。 ・数学では計算練習を繰り返し行い、数学的な技能を身に付けさせる。 ・個々に対してつまづいている部分を放課後に個別指導する。 |
|---|

② 家庭生活習慣等に関する取組

| |
|---|
| <ul style="list-style-type: none"> ・現在も取り組んでいる「週末ノート」で、継続的な自主勉強を行う。 ・家庭で最低1時間～2時間は机について勉強するよう指導する。 ・懸案の家庭学習ノートについて検討を進める |
|---|